(氏名) 若林 隆久

(学部) 地域政策学部

### 1 重要事項

### (1)研究

### ① 研究成果

## 【論文など】

1. <u>若林隆久</u> (2020) 『地方における新しい働き方と働く場所:群馬県内のコワーキングスペースを中心に』高崎経済大学ブックレット③.

# ② 研究費

- (A) 科学研究費助成事業・若手研究の課題番号 19K13804「個人間ネットワークがもたらす組織活性化の定量的・定性的研究」(2019 年度~2022 年度、研究代表者: 若林隆久) が採択された (https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K13804/)。
- (B) 三井デザインテック株式会社との共同研究「オフィスにおけるコミュニケーションについて」(2019年4月~2020年3月)を行った。
- (C) 平成30年度地域科学研究所研究プロジェクト「地方都市における中小製造業の存立基盤に関する研究」が継続された(研究分担者、研究代表者:永田瞬)。

# ③ 「組織におけるキャリアとワークスタイル」研究会開催

高崎経済大学地域政策学会「学生向け学習・研究支援プログラム助成」の助成も受け、研究教育活動の一環として「組織におけるキャリアとワークスタイル」研究会を6回とワークショップ2回を開催した。また、14回のキャリワクカフェを開催した。

### (2)教育

### ① 講義

前期には「経営学」と「キャリアデザイン論」、後期には「経営分析」と「産業立地論」の講義を担当した。新たに担当したキャリアデザイン論では Google Form を利用した双方向の講義を試みた。また、既存の講義でも、ウェブページや Twitter での学習リソースの提供、毎回の講義での確認テストの実施(経営分析)、ルーブリックの使用(産業立地論)、などに新たに取り組んだ。講義のゲストスピーカーとして、「アーツマネジメント論」において「アートの価値とは何か」と「アートがもたらす価値」といった講義を行った。さらに、「地域政策を考える」の担当回で講義を行った。

### ② 演習

基礎演習および演習 I・IIでは、通常の演習の時間(含、佐藤公俊ゼミ・中村匡克ゼミとの合同オープンゼミ)に加えて課外活動として、三扇祭への模擬店の出店、1 泊 2 日の合宿、シンガポールにおける海外フィールドワーク(8 月 5~9 日)を行った。演習の時間には、テキストを用いた輪読・ディスカッションに加えて、実務家インタビュー、ビジネスプラン・商品企画、ケースメソッド、ビジネスゲームに取り組んだ。

#### (3) 社会における活動

- ① 一般社団法人経営研究所「人材開発と組織」研究会 コーディネータ 経営研究所の「人材開発と組織」研究会において、コーディネータを務めた。
- ② 日本生産性本部・経営アカデミー「組織変革とリーダーシップコース」講師 日本生産性本部・経営アカデミーの「組織変革とリーダーシップコース」において、 「未来をソウゾウする」という講義を行った。また、グループ指導講師を務め、「領空 侵犯 R:連携を実現するためのトリガー」という論文作成の指導を行った。

#### ③ 株式会社ゲノムクリニック倫理審査委員会・委員長

株式会社ゲノムクリニック(https://www.genome-clinic.co.jp/)の倫理審査委員会において委員長を務めた。

## ④ ラジオ高崎 ラジオゼミナールへの出演

大学の地域貢献事業の一環であるラジオ高崎のラジオゼミナールに出演し、「キャリアデザイン論」(2019年5月3日金曜日9時30分~、再放送:2019年5月8日水曜日10時30分~)と「大学での学び」(2019年5月10日金曜日9時30分~、再放送:2019年5月15日水曜日10時30分~)という2回を担当した。

### ⑤ あすなろ市民ゼミ

「ソーシャル・キャピタルをいかに構築するか」というテーマで実施した。

### ⑥ 学内での講演会などの開催

講師を招聘し、地域科学研究所第 13 回講演会(2019 年 7 月 22 日)「日本微住計画: 旅でも移住でもない、定住しない暮らしかた」(講師:佐藤翔平氏)、創業者創出ミーティング(2019 年 11 月 11 日)(講師:須永珠代氏)の開催に携わった。

### ⑦ 高校における出前授業など

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校の特別進路講演会において「キャリアから考える大学教育」という講演を行った(2019年6月28日)。

# 2 その他の事項

- 広報室運営委員会、職域代表、カリキュラム改革ワーキンググループ、などの学 内業務を行った。
- 文部科学省「留学生就職促進プログラム」グローカル・ハタラクラスぐんまのカリキュラム委員会の委員、および、群馬県創業支援連携会議の委員として、関連する会議・業務などに携わった。
- 研究・教育の一環として、オンライン講座「教育のゲーミフィケーション:プレイフル/ゲームフルな学びのデザイン方法論」、第 2 期リーダー育英塾(電通育英会)、Change Management Certification Program(Association for Talent Development)、「インタラクティブ・ティーチング」アカデミー2019 の第 4 回「学びを促す評価(ルーブリックづくり)」(日本教育研究イノベーションセンター)を受講・修了した。また、未来のマナビフェス 2019、ティーチング・ポートフォリオ研究会第 1 回総会、デザイン思考やアップサイクルによる商品作成に関するワークショップに参加した。

#### 3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、来年度も継続予定である科学研究費助成事業・若手研究を中心に、これまでに実施した職場やコワーキングスペースに関する調査研究を継続しながら研究成果をまとめていく。また、最終年度を迎える平成30年度地域科学研究所研究プロジェクト「地方都市における中小製造業の存立基盤に関する研究」の成果をまとめるとともに、来年度から開始予定の地域科学研究所研究プロジェクト「現代の地域におけるリーダーシップのあり方の研究」を研究代表者として遂行する。

教育面では、新型コロナウイルスの影響を鑑みて、オンラインを中心とした講義・ゼミを実施する。本年度までの取り組みを活かしつつ、オンラインに適した形式・内容の講義の確立に取り組む。ゼミにおいては、内部での活動を充実させ質を高めるとともに、外部との交流や国内外のフィールドワークといった活動を増やす。教育活動についても、研究活動と同様に積極的に教育内容や成果を発信していくことを目指す。